

話題 其の42：“ものさし”

“Common sense is nonsense” という造語を聞いたことがあります。

もう15年程前のJICA 専門家派遣前研修の時でした。

直訳すると「常識なんてナンセンスだ」となってしまうのですが、この言葉の持っている意味は、途上国といわず、外国には日本人が常識としていることが非常識である場合があるということです。例えば、東南アジアのある国では、子どもに出逢った時、可愛さあまって頭をなでようとする「なんて事をするんだ・・・」と怒られます。頭は神様が宿る新鮮なところで、凡夫の手で汚してはならないのです。

ヨルダンでは、食事に招待されたとき、お皿に盛りだご馳走を平らげるのはよくないと聞きます。

何故なら、平らげることによって「この人はまだ食べたいのだろうか? 接待は不十分だったのかな?」と相手が勘違いするからだといえます。

日本人の躰は、「お百姓さんが汗水流して作ったお米をやたらおろそかに残すものじゃないのよ」でしょう。でも、私は招待されるたびに、日本流で通しています。だって、食べるのは難しいほど用意されていますから、せめて自分のお皿くらいはきれいに残飯を残さないようにしないと(^-^)

近頃、私の職場での悩みは同僚達にチームワークが無いことです。

ある同僚は、「チームワークこそ大切だ」なんていう文章を壁に張っていますが、2年経っても、効き目はいっこうに出ていません(^-~;)。

時折『日本ではね・・・』と、仕事の進め方や考え方を紹介するのですが、「日本にはお金があるからそうできるんだよ。ここの状況は違うだろう」と切り返されます。

『日本だって戦後何も無かった状態から立ち直ったんだぞ』という、「ここではシステムがちゃんと機能してないんだ」と嘆きます。いわゆる、就業規則や業績評価などが疎かになっているので、“どうでもいいや”状態なのです。同僚達は人柄も良く、学識もありますが、個人主義が目立ちます。

決して、『便利な生活を求めつづけ、貴重な地球資源の浪費国家を造った日本人の勤勉さに学べ』と言っているのではないのです。《パレスチナ難民子女の就職機会拡大の為に職業訓練の受講機会を提供する》という組織目標のために、“もっと協力体制が必要だよ”と呼びかけたいのです。

ここにも、日本人のものさし(常識)と当地のものさしの標準が違うことに原因があるようです。チームワークをテーマに考えてみましょう。日本人はチームワークをどのようにして教えられ、体得したのでしょうか。私の場合それは、小・中・高と続けた剣道というスポーツを通して、日々の練習や時折の試合を経験しながら“同じ釜の飯”を食った仲間達との連帯が一番印象に残っています。

クラブ活動だけではなく、小・中学校の日々の体育や運動会といった集団行事への準備と本番の緊張を共有することで、チームワークを形成、育成する教育が日本にはあります。(よね・・・?)

しかし、ヨルダンの学校に運動場を備えた施設をまだ見たことがありません。指導要綱の中には、体育の割り当て時間がちゃんとあるのですが、何を指導しているのか把握していません。でも、体育大学など、体育教師を育てる環境が整備されていないので、集団競技というチームワーク形成に役立つ指導はなされていないでしょう。

子ども達に潜在能力(走る、飛ぶ、投げる、踊る・・・)があることに気付かせることさえもないのでしょうか? そして、それを引き出し、伸ばして少々勉強の出来ない子どもに自信をつけてやることはとても大切な教育だと思うのですが。

夏の高校野球大会の予選が各地で始まりましたね。球児たちは皆、甲子園という目標に向かって、各自の個人技を最大に生かせるチーム作りを念頭に戦っていることでしょう。

チームワークに欠かせないのが素晴らしいリーダーの存在ですが、チームワークの悪い組織から素晴らしいリーダーが出るのも困難ですよ。(鶏が先か? 卵が先か?)

日本という国の常識、ヨルダンという国の常識には差があるのです。その差を自分のものさしで測ろうとしても無理があります。ものさしの目盛りが違うのですから。

改めて、相手のものさしを観察するのが大切だと思う今日この頃です。
